

詩篇66-70篇 「国々に向かう賛美」

1A 栄光に輝かせる賛美 66

1B 国々への呼びかけ 1-9

2B 試練からの救い 10-20

2A 国々に知られる祝福 67

3A 神のシオンへの来臨 68

1B 神の出立 1-6

2B シナイからシオンへ 7-18

3B シオンからの救い 19-31

4B 世界での賛美 32-35

4A 誹りの大波 69

1B 故の無い憎しみ 1-12

2B 恵みによる救い 13-18

3B 敵への復讐 19-28

4B 心貧しき者 29-36

5A 急ぎの救い 70

本文

詩篇66篇から見ていきます。私たちは詩篇から数多く礼拝について学ぶことができます。前回、65篇では神の前には静けさがあるという部分を学びました。自分たちで何かをするのをやめ、主に目を向けて静かにする、ということを学びました。そして66篇は、主の前で大きく喜び叫んでいます。主の前に自分を静かにさせることも必要だし、そしてあらん限り力を尽くして喜びの声をあげることもあります。

1A 栄光に輝かせる賛美 66

1B 国々への呼びかけ 1-9

66 指揮者のために。歌。賛歌 66:1 全地よ。神に向かって喜び叫べ。66:2 御名の栄光をほめ歌い、神への賛美を栄光に輝かせよ。66:3 神に申し上げよ。「あなたのみわざは、なんと恐ろしいことでしょう。偉大な御力のために、あなたの敵は、御前にへつらい服します。66:4 全地はあなたを伏し拝み、あなたにほめ歌を歌います。あなたの御名をほめ歌います。」セラ

65 篇でもそうでしたが、神に向かっている賛美が全地においてなされています。1 節で、全地よと呼びかけ、4 節でも全地はあなたを伏し拝みとあります。小さなイスラエルの国が、全世界に広がる賛美を行っているのです。私たちが賛美を捧げる時に、特に讃美歌ではなく、現代のワーシップやプレイズを見る時に、全地において主を賛美するものが多いですね。私たちの生活圏は東京

やその近郊という極めて小さな領域ですが、いきなり賛美の中では壮大な世界が広がります。なぜなら、私たちの信じている神は確かに全地の神だからです。天と地のすべてを造られた方であり、あらゆるところで主の名が呼び求められるべきであります。

そして、「神への賛美を栄光に輝かせよ。」と言っています。神を賛美するのですが、その賛美すべき内容を拡大鏡のようにしようと言っています。それで5節からそれを語り始めます。

66:5 さあ、神のみわざを見よ。神の人の子らになさることは恐ろしい。66:6 神は海を変えて、かわいた地とされた。人々は川の中を歩いて渡る。さあ、私たちは、神にあって喜ぼう。66:7 神はその権力をもってとこしえに統べ治め、その目は国々を監視される。頑迷な者を、高ぶらせないでください。セラ 66:8 国々の民よ。私たちの神をほめたたえよ。神への賛美の声を聞こえさせよ。66:9 神は、私たちを、いのちのうちに保ち、私たちの足をよろけさせない。

出エジプトの出来事とヨルダン川の渡河の出来事を挙げています。6節に海を変えたと言っていますが、これは紅海が分かれたことですね。そして川の中を歩いて渡るのが、ヨシュア率いるイスラエルがヨルダン川を渡ったところです。これは二つとも、国々に対して大きな証しでありました。当時の超大国エジプトの軍隊が沈んだのです。そして、ヨルダン川では、そこを渡り、同時の先進的なカナンの国々を制圧しました。そこに天地を創造された神がおられることを、神を信じない国民がまざまざと見たのです。そこで賛美を、国々も行なうように呼びかけています。

2B 試練からの救い 10-20

66:10 神よ。まことに、あなたは私たちを調べ、銀を精練するように、私たちを練られました。66:11 あなたは私たちを網に引き入れ、私たちの腰に重荷を着けられました。66:12 あなたは人々に、私たちの頭の上を乗り越えさせられました。私たちは、火の中を通り、水の中を通りました。しかし、あなたは豊かな所へ私たちを連れ出されました。

先に、イスラエルの賛美によって国々が神を賛美するようになるという状態は、イスラエルがこのように大きな試練の中を通らされた結果でありました。これがいつのことを表しているのか、定かではありません。もしかしたらバビロン捕囚の時であったかもしれません。ダニエルの友人がバビロンにいた時には、文字通りネブカデネザルによって火の中を通らされました。それでも、そこから救い出されました。これはまた、終わりの日の幻かもしれません。キリストが再び来られることによってイスラエルが回復し、そして全世界が回復したイスラエルのところにおられるキリストを見て、神を賛美しているのかもしれませんが。そこで、イスラエルが大きな患難を通して、それによって練り清められたことを証ししているかもしれません。

そして何よりも、キリストの内にある者が、この証しを立てることができるのではないのでしょうか？「ピリピ 3:10-11 私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知っ

て、キリストの死と同じ状態になり、どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。」私たちがキリストにある苦しみにあずかっている中で、必ずキリストの命が私たちに内に現われます。思い出すと恥ずかしいのですが、まだカルバリーチャペルに行く前にも私は説教の奉仕をしていました。どうやって説教すればよいか分からなかったのですが、人々が良かったと言ってくれたのは、私がかみ社の中でもみくちやにされている話を有体に話した時でした。それこそ、クリスチャンとして言うのが恥ずかしいと思っていたところが、かえってそこにキリストが現われてくださったのです。試練の中に、神の力が現れます。

66:13 私は全焼のいけにえを携えて、あなたの家に行き、私の誓いを果たします。66:14 それは、私の苦しみのときに、私のくちびるが言ったもの、私の口が申し上げた誓いです。66:15 私はあなたに肥えた獣の全焼のいけにえを、雄羊のいけにえの煙とともにささげます。雄牛を雄やぎといっしょに、ささげます。セラ

試練の中にいて、誓いを立てました。いけにえを捧げるという誓いでした。これは大事ですね、私たちの献身が、試練の中で練り清められた心の動機に支えられているというのは大切です。試練や苦しみによって、自分の不純な動機が清められていて、そこにある神の御心にしがたって今の自分がいます。

66:16 さあ、神を恐れる者は、みな聞け。神が私のたましいになさったことを語ろう。66:17 私は、この口で神に呼ばわり、この舌であがめた。66:18 もしも私の心にいただく不義があるなら、主は聞き入れてくださらない。66:19 しかし、確かに、神は聞き入れ、私の祈りの声を心に留められた。66:20 ほむべきかな。神。神は、私の祈りを退けず、御恵みを私から取り去られなかった。

これは、午前礼拝で学びました。おそらく彼は、大きな試練の中で練り清められ、その中で主に對して罪を言い表したのでしょう。そこで、神が恵みによってその祈りを聞いてくださり、そして今のように回復してくださったのです。恵みによって祈りを聞いてくださいました。そして、今、その心は清められています。

2A 国々に知られる祝福 67

67 指揮者のために。弦楽器によって。賛歌。歌 67:1 どうか、神が私たちをあわれみ、祝福し、み顔を私たちの上に照り輝かしてくださるよう。セラ 67:2 それは、あなたの道が地の上に、あなたの御救いがすべての国々の間に知られるためです。67:3 神よ。国々の民があなたをほめたたえ、国々の民がこぞってあなたをほめたたえますように。67:4 国民が喜び、また、喜び歌いますように。それはあなたが公正をもって国々の民をさばかれ、地の国民を導かれるからです。セラ

この詩篇もまた、国々に対する証しを、イスラエルが立てているものになっています。イスラエルが豊かに祝福されることによって、それで神の救いが国々に知られて、国々も主を喜び歌います。

イスラエルは、メシヤの内にあって「世界の光」であると神は言われました。「イザヤ書 49:6 わたしはあなたを諸国の民の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」自分たちが救われることだけが目的ではなく、むしろイスラエルの救いによって、世界が神をあがめるようになるためです。

67:5 神よ。国々の民があなたをほめたたえ、国々の民がこぞってあなたをほめたたえますように。
67:6 地はその産物を出しました。神、私たちの神が、私たちに祝福してくださいますように。67:7 神が私たちに祝福してくださって、地の果て果てが、ことごとく神を恐れますように。

繰り返しています、イスラエルが祝福されて、それで国々が神をほめたたえ、そして地の果て果てまで神を恐れるように、ということです。

この詩篇はしばしば、「宣教の詩篇」と呼ばれています。私たちがキリストに満たされるだけでは不十分であり、キリストによって御霊に溢れ、そして世界にキリストを伝えるという使命を私たちは持っています。まず、私たちがキリストによって祝福を受けます。「エペソ 1:3 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。」あのヤベツも祈りましたね。「1歴代 4:10 私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように。御手が私とともにあり、わざわざから遠ざけて私が苦しむことのないようにしてくださいますように。」私たちが祝福されることによって、神をまだ知らない人々に救いを知らせ、そして神を恐れるようになっていきます。

3A 神のシオンへの来臨 68

68 指揮者のために。ダビデの賛歌。歌

68 篇は、とても勇ましい歌です。これは、民数記にあるシナイ山からイスラエルの民が出発した時からダビデの時代までの神のご臨在と導きのことを歌っていると思われます。シナイ山から主が立ち上がり、そして彼らと共に動いてくださり、その間に敵を倒し、そして約束の地に入られて、シオンに留まれて、そこから周囲の国々を従わせます。

1B 神の出立 1-6

68:1 神よ。立ち上がってください。神の敵は、散りうせよ。神を憎む者どもは御前から逃げ去れ。
68:2 煙が追い払われるように彼らを追い払ってください。悪者どもは火の前で溶け去るろうのように、神の御前から滅びうせよ。68:3 しかし、正しい者たちは喜び、神の御前で、こおどりせよ。喜びをもって楽しめ。68:4 神に向かって歌い、御名をほめ歌え。雲に乗って来られる方のために道を備えよ。その御名は、主。その御前で、こおどりして喜べ。

これは民数記 10 章にある、イスラエルの民がシナイ山から旅立つ時にモーセが言った言葉に

似ています。「彼らが宿営を出て進むとき、昼間は主の雲が彼らの上にあった。契約の箱が発せるときには、モーセはこう言っていた。「主よ。立ち上がってください。あなたの敵は散らされ、あなたを憎む者は、御前から逃げ去りますように。(34-35 節)」荒野の旅というものは、苛酷です。そこにはアマレク人のように、自分たちを襲い、略奪する者たちもいたからです。興味深いことに、今、シナイ半島でイスラム過激派がいて、首切りをされた事件が起こっています。そのような危険な旅に際して、神が敵どもに戦ってくださいという祈りを捧げています。

「雲に乗って来られる方のために道を備えよ。」と叫んでいます。これは、シナイ山に黒雲によって降りてこられて、雲の柱で導かれる主のご臨在のことを言っているかもしれませんが、終わりの日のキリストの再臨を予め示しているのでしょうか。キリストは雲に乗って戻ってこられます。雲は神の栄光を表します。ハバクク書 3 章を見ると、キリストが再臨されるのはパランの方角から、つまりイスラエルがシナイ山から約束の地に向かうその方角から戻ってこられることが分かっています。そして、正しい者たちは小躍りにして喜んでいます。これも、キリストの再臨時に聖徒たちが大きく喜ぶ姿に重なります。(2テサロニケ 1:10)

68:5 みなしごの父、やもめのさばき人は聖なる住まいにおられる神。68:6 神は孤独な者を家に住まわせ、捕われ人を導き出して栄えさせられる。しかし、頑迷な者だけは、焦げつく地に住む。

力ある者たちを制することのできる全能の父は、実に弱い者たちの間に住んでくださいます。これが福音の原則です。王たちをひれ伏させることのできる方は、最も弱い者たちの間におられて、彼らを助けてくださいます。イエス様が言われましたね、「マタイ 18:4-6 だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。」

2B シナイからシオンへ 7-18

68:7 神よ。あなたが御民に先立って出て行かれ、荒れ地を進み行かれたとき、セラ 68:8 地は揺れ動き、天もまた神の御前に雨を降らせ、シナイもイスラエルの神であられる神の御前で震えました。68:9 神よ。あなたは豊かな雨を注ぎ、疲れきったあなたのゆずりの地をしっかりと立てられました。68:10 あなたの群れはその地に住みました。神よ。あなたは、いつくしみによって悩む者のために備えをされました。

荒野において主が先頭に出て行かれた時の様子を歌っています。シナイ山に降りてこられた時に地が揺れ動きました。黒雲もあったので、雨も降ったようです。そして、カナンにまで導かれました。そこには豊かな雨を降らせてくださっていたので、彼らが入る時は豊かな地となっていました。そして、イスラエルの民を「群れ」と表現しています。羊の群れのことで。

68:11 主はみことばを賜わる。良いおとずれを告げる女たちは大きな群れをなしている。68:12 万軍の王たちは逃げ去り、また逃げ去る。そして家に居残っている女が獲物を分ける。68:13 あなたがたは羊のおりの間に横たわるとき、銀でおおわれた、鳩の翼。その羽はきらめく黄金でおおわれている。

イスラエルの民を羊の群れのようにして、神は彼らを世話してくださっていました。ここは、イスラエルの民がモアブの地を上がり、そこにいるシホンとオグの王を倒した時のことを話しているのだと思います。女の活躍があります。女という弱い器を、神は大いに用いられる姿を聖書は描いています。主の言葉が与えられ、良いおとずれを携えるのは女だとあります。これは、復活の時にそうでしたね。弟子たちは復活の出来事に対して鈍かったですが、マグダラのマリヤや他の女たちが、イエスが十字架に付けられる前に語られていた言葉を悟って、それでいちやく伝えました。それから、獲物を女が分けています。その後で、銀で覆われた鳩の翼、羽がきらめく黄金とありますが、これはあまりにも多く、高価な分捕り物を手にしている姿です。

68:14 全能者が王たちをかしこで散らされたとき、ツアルモンには雪が降っていた。68:15 神の山はバシヤンの山。峰々の連なる山はバシヤンの山。68:16 峰々の連なる山々。なぜ、おまえたちは神がその住まいとして望まれたあの山を、ねたみ見るのか。まことに、主はとこしえに住まわれる。68:17 神のいくさ車は幾千万と数知れず、主がその中に、おられる。シナイが聖の中にあるように。68:18 あなたは、いと高き所に上り、捕われた者をとりにし、人々から、みつぎを受けられました。頑迷な者どもからさえも。神であられる主が、そこに住まわれるために。

ヨルダン川を渡り、そして主が後にシオンのご自分の名を置き、そこに住まわれることについて歌っています。ここにバシヤンの山、峰々の連なる山々とあります。これはヘルモン山の事です。バシヤンはゴラン高原で、その北にヘルモン山があり、それがイスラエルで最も高い山です。この山が、小さな丘のような山であるシオンを妬んでいます。なぜか？もっぱら、そこに主が住んでおられるからです。主が共に住んでおられるということのほうが、いかなる高くそびえる山でさえも、たいしたことはない、ということです。いかがでしょうか、私たちが主と共にいるということは、日本の山富士山でさえも羨む、ということが言えるのです。あるいは、私たちが主と共にいることは、六本木ヒルズを住まいとして、東京のネオンを毎日楽しんでいることよりも、はるかに優れているのです。

そして 18 節ですが、主がシオンにおられて、それで戦いにおいて捕えた者たち、また人々から貢をもらっているということですが、この箇所をパウロがエペソ 4 章で引用しています。「4:7-10 しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。そこで、こう言われています。「高い所に上られたとき、彼は多くの捕虜を引き連れ、人々に賜物を分け与えられた。」この「上られた。」ということばは、彼がまず地の低い所に下られた、ということではなくて何でしょう。この下られた方自身が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも高く上られた方

なのです。・・・」キリストが天に引き上げられ、そこに捕虜とありますが、それはハデスで捕らわれていた旧約時代の聖徒を引き上げ、そして地上にいる私たちに聖霊の賜物を与えられたという内容です。詩篇の該当箇所を読むとそのようには読めませんが、パウロが聖霊によってキリストの働きと聖霊の賜物について話しているのもであると、悟りました。ですから、私たちは弱い者たちであります、圧倒的な勝利をもって勝利されたキリストが、天から聖霊によって賜物を与えておられるということを知るべきでしょう。

3B シオンからの救い 19-31

68:19 ほむべきかな。日々、私たちのために、重荷をになわれる主。私たちの救いであられる神。セラ 68:20 神は私たちにとって救いの神。死を免れるのは、私の主、神による。68:21 神は必ず敵の頭を打ち砕かれる。おのれの罪過のうちを歩む者の毛深い脳天を。

私たちはこのように、日々主が重荷を負ってくださいます。私たちに押し寄せる敵どもに対して、主がその戦いの重荷をになってくださり、戦ってくださいます。

68:22 主は仰せられた。「わたしはバシヤンから彼らを連れ帰る。わたしは海の底から連れ帰る。68:23 それは、あなたが、足を血に染めて、彼らを打ち砕くために。あなたの犬の舌が敵からその分け前を得るために。」68:24 神よ。人々は、あなたの行列を見ました。聖所でわが王わが神の行列を。68:25 歌う者が先に立ち、楽人があとになり、その間にタンバリンを鳴らしておとめらが行く。68:26 「相つどうて、神をほめたたえよ。イスラエルの泉から出た者よ。主をほめたたえよ。」68:27 そこには、彼らを導く末子のベニヤミンがおり、その群れの中にはユダの君主たち、ゼブルンの君主たち、ナフタリの君主たちもいる。

主が今、イスラエルの民を集めてくださっています。ダビデが王として立てられています、彼らはヨルダン川を渡り、その前に紅海が分かれたところを渡ってきた者たちです。そして、周囲の敵どもはダビデの前で屈服しました。そして女たちがタンバリンをもって楽しんでます。ダビデがゴリヤテを倒した時に、そうでしたね。そして、ユダだけでなくイスラエルも一堂に集まっているのです。ベニヤミンとユダだけでなく、ゼブルンとナフタリ、つまりイスラエルの頭たちもいます。

68:28 神よ。御力を奮い起こしてください。私たちのために、事を行なわれた神よ。御力を示してください。68:29 エルサレムにあるあなたの宮のために、王たちは、あなたに贈り物を持って来ましょう。68:30 葦の中の獣、それに、国々の民の子牛とともにいる雄牛の群れを、叱ってください。銀の品々を踏み汚す戦いを喜ぶ、国々の民を散らしてください。68:31 使節らはエジプトから来、クシュはその手を神に向かって急いで差し伸ばす。

これは、ダビデの時代を越えているかもしれません。周囲の国々が攻めてきても、彼らは倒されて、むしろ貢物を持ってくるようになります。そして、その力がエジプトへも、クシュすなわちエチオ

ピヤにも及ぶということです。ここから、ダビデの時代ではなく、アッシリヤを倒したヒゼキヤの時代ではないかと言われています。ヒゼキヤはアッシリヤに取り囲まれて、主に祈ったところ、大勝利を与えてくださいました。そのため、力あるエジプトとエチオピヤがヒゼキヤに対して贈り物を持ってくるまでになりました。

4B 世界での賛美 32-35

68:32 この世の王国よ。神に向かって歌え。主に、ほめ歌を歌え。セラ 68:33 昔から、いと高き天に乗っておられる方に向かい、ほめ歌を歌え。聞け。神は御声を発せられる。力強い声を。68:34 神の力を認めよ。みいつはイスラエルの上に、御力は雲の上にある。68:35 神よ。あなたはご自身の聖なる所におられ、恐れられる方です。イスラエルの神こそ力と勢いとを御民にお与えになる方です。ほむべきかな。神。

ついに、幻は終わりの日の千年王国になっています。この世の王国よ、と世界の王国に対して賛美を呼びかけています。そして、天から雲に乗って来られた方に賛美します。再臨のキリストです。そして聖なる所、すなわちエルサレムの神殿におられるようになります。私たちは、かつてモーセからヨシュアへ、そしてダビデへと証ししてくださった神のご臨在と力が、天から雲に乗って来られるキリストによって現われることを信じて、待ち望みたいです。

4A 誹りの大波 69

69篇は、神がシオンを救ってくださるという言葉が最後に来ます。けれども、ダビデが敵からの猛攻撃を受けて、誹りの火矢が飛んできて、ダビデのみならず、イスラエルの民までにその非難が免れない状態になっている歌です。ダビデは大水の中にいると表現しています。大水の中にいて、そこから這い上がるのにどのような祈りを捧げたのかが分かります。そして69篇は、ダビデのこの苦しみからキリストご自身が、そしりを受けられたその預言が満載の箇所です。

1B 故の無い憎しみ 1-12

69 指揮者のために。「ゆりの花」の調べに合わせて。ダビデの調べ 69:1 神よ。私を救ってください。水が、私ののどにまで、はいつて来ましたから。69:2 私は深い泥沼に沈み、足がかりもありません。私は大水の底に陥り奔流が私を押し流しています。69:3 私は呼ばわって疲れ果て、のどが渇き、私の目は、わが神を待ちわびて、衰え果てました。69:4 ゆえなく私を憎む者は私の髪の毛よりも多く、私を滅ぼそうとする者、偽り者の私の敵は強いのです。それで、私は盗まなかった物をも返さなければならないのですか。

ダビデは、4 節を見てください、「ゆえなく私を憎む」ということを経験していました。そして、数々の誹り、侮辱を受けていました。それを深い沼、大水の底と言い表しています。私たちにとって身近な問題ではないでしょうか？人々からシカトされること。いじめにあうこと。子供だけでなく大人の世界でも起こります。それは、あまりにも普段から起こっているので大したことがないと思ってい

るかもしれませんが、いいえ、大したことがあるのです。ここで言い表しているようなことが、起こるのです。

そして、ここ「ゆえもなく私を憎む」という言葉は、イエス様によって引用されています。「もしわたしが、ほかのだれも行なったことのないわざを、彼らの間で行なわなかったのなら、彼らには罪がなかったでしょう。しかし今、彼らはわたしをも、わたしの父をも見て、そのうえで憎んだのです。これは、『彼らは理由なしにわたしを憎んだ。』と彼らの律法に書かれていることばが成就するためです。(ヨハネ 15:24-25)」これからも、いくつもイエス様が十字架に付けられる時に受けた誹りが、この詩篇で預言されていることが分かります。ダビデが受けていた苦しみののですが、その苦しみの中にキリストのお姿が預言されていたのです。言い換えれば、イエス様は私たちが口によって受けた苦しみを、既に受け取ってくださったことを知ることができます。

69:5 神よ。あなたは私の愚かしさをご存じです。私の数々の罪過は、あなたに隠されてはいません。69:6 万軍の神、主よ。あなたを待ち望む者たちが、私のために恥を見ないようにしてください。イスラエルの神よ。あなたを慕い求める者たちが、私のために卑しめられないようにしてください。

今受けている誹りは、ダビデが過去に犯したことに遠因があるようです。けれども、神が彼を憐れんでくださり、立ち上がらせてくださいました。そして彼は、神を礼拝し、神に仕えています。しかし、妬みに拠るものでしょう、過去に犯したものが取り上げられて責められているのです。さらに、イスラエルの民の神を慕い求める者たちまでも卑しめられる危機に瀕していました。

69:7 私は、あなたのためにそしりを負い、侮辱が私の顔をおおっていますから。69:8 私は自分の兄弟からは、のけ者にされ、私の母の子らにはよそ者となりました。69:9 それは、あなたの家を思う熱心が私を食い尽くし、あなたをそしる人々のそしりが、私に降りかかったからです。69:10 私が、断食して、わが身を泣き悲しむと、それが私へのそしりとなりました。69:11 私が荒布を自分の着物とすると、私は彼らの物笑いの種となりました。69:12 門にすわる者たちは私のうわさ話をしています。私は酔いどれの歌になりました。

ダビデが主に対して献身している、その姿のゆえに誹りを受けています。ですから、純粋な迫害です。兄弟たちにも除け者にされているのは、神の家を思う熱心によったからでした。そして、ここで再びイエス様の宮清めの預言となっています。イエス様が、宮清めをされた時に弟子たちは、9節の言葉を思い出します。そして、断食をしても、荒野をかぶっても、すべて物笑いに種になっています。門に座る者たちというのは、役人のことです。彼らまでが噂話をしています。

ですから、私たちは迫害を受けます。私たちが何か他の理由で、たとえば自分のおかしな行動で嫌なことを言われたら、それは迫害ではありません。迫害とは、義のため、イエス様のために嫌がらせを受けることです。「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のもの

だからです。わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜びおどきなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのです。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。(マタイ 5:10-12)」

2B 恵みによる救い 13-18

69:13 しかし主よ。この私は、あなたに祈ります。神よ。みこころの時に。あなたの豊かな恵みにより、御救いのまことをもって、私に答えてください。69:14 私を泥沼から救い出し、私が沈まないようにしてください。私を憎む者ども、また大水の底から、私が救い出されるようにしてください。69:15 大水の流れが私を押し流さず、深い淵は私をのみこまず、穴がその口を私の上で閉じないようにしてください。69:16 主よ。私に答えてください。あなたの恵みはまことに深いのです。あなたの豊かなあわれみにしたがって私に御顔を向けてください。69:17 あなたのしもべに御顔を隠さないでください。私は苦しんでいます。早く私に答えてください。69:18 どうか、私のたましいに近づき、贖ってください。私の敵のゆえに、私を贖ってください。

ダビデは、大水から救い出されることを祈っています。それは、「御心の時に」とダビデは言っています。たった今ではなく、主が良しとされる時に助けてくださいと言っています。けれども、興味深いのは 17 節です、ここでは「早く答えてください」と言っています。これは私たちのもがきを十分に伝えているのではないのでしょうか？御心になることを誰でも私たちは願います。けれども、いざその苦しみの中に入られたら、速やかな救いを願うのです。

そして「豊かな恵みによって」救ってほしいと願っています。また 16 節にも、恵みによって、あわれみによってあしらってほしいと願っています。彼の正しさではなく、神が一方的に良く思ってくださっているから、ダビデは立つことができるのです。私たちを中傷や誹り、いじめから救うのは、これです。「神の恵みを知る」ことです。神は私たちが何かをしたから、また何かがあるから好いているわけではありません。神がただ愛したいから愛しておられるのです。このことによって、自分の内に原因探しをすることをやめることができます。

3B 敵への復讐 19-28

69:19 あなたは私へのそしりと、私の恥と私への侮辱とをご存じです。私に敵対する者はみな、あなたの御前にいます。69:20 そしりが私の心を打ち砕き、私は、ひどく病んでいます。私は同情者を待ち望みましたが、ひとりもいません。慰める者を待ち望みましたが、見つけることはできませんでした。69:21 彼らは私の食物の代わりに、苦味を与え、私が渴いたときには酢を飲ませました。

同情者がいない状態です。今の苦しみを慰めてくれる者がいませえん。だからダビデは、ただ主のみ拠り頼んだのです。私たちも、このことに限っては確かに慰めてくれる人がいると良いですが、自分の最も心の奥にある苦しみを他の人間に分かってもらうことはほぼ無理です。主ご自身を知

らないといけません。そして、この状態も主ご自身が受けられました。21 節はまさに、十字架上で成就したものです。「また、彼らのひとりはずぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。(マタイ 27:48)」

69:22 彼らの前の食卓はわなとなれ。彼らが栄えるときには、それが落とし穴となれ。69:23 彼らの目は暗くなって、見えなくなれ。彼らの腰をいつもよろけさせてください。69:24 あなたの憤りを彼らの上に注いでください。あなたの燃える怒りが、彼らに追いつくようにしてください。69:25 彼らの陣営を荒れ果てさせ、彼らの宿営にはだれも住む者がないようにしてください。69:26 彼らはあなたが打った者を迫害し、あなたに傷つけられた者の痛みを数え上げるからです。69:27 どうか、彼らの咎に咎を加え、彼らをあなたの義の中に入れてください。69:28 彼らがいのちの書から消し去られ、正しい者と並べて、書きしるされることがありませんように。

迫害する者たちに対して、復讐を徹底的にしてほしいことを主に願っています。そうです、主こそが復讐のできる方であり、主のみが裁くことのできる方です。復讐は自分ですのではなく、神にさせていただきます。

ところで、ここでもキリストの預言は成就します。22 節はローマ 11 章で引用されているものです。ユダヤ人で福音を受け入れず、敵対している者たちの姿としてパウロは引用しています。そして 25 節は、使徒ペテロがイスカリオテのユダについての預言であると言っています。「実は詩篇には、こう書いてあるのです。『彼の住まいは荒れ果てよ、そこには住む者がいなくなれ。』また、『その職は、ほかの人に取らせよ。』(使徒 1:20)」

4B 心貧しき者 29-36

69:29 しかし私は悩み、痛んでいます。神よ。御救いが私を高く上げてくださるよう。69:30 私は神の御名を歌をもってほめたたえ、神を感謝をもってあがめます。69:31 それは雄牛、角と割れたひずめのある若い雄牛にまさって主に喜ばれるでしょう。69:32 心の貧しい人たちは、見て、喜べ。神を尋ね求める者たちよ。あなたがたの心を生かせ。69:33 主は、貧しい者に耳を傾け、その捕われ人らをさげすみなさらないのだから。

ダビデは回復しました。やはり、詩篇において主に対して激しく復讐の祈りをした後で、主に復讐を任せられて、それで回復しています。そして、ダビデは自分のことを貧しい者と呼びました。彼は王ですから貧しいはずはないのですが、これは心の貧しさです。「あなた以外には、私は何も自分に持ち合わせていません。」ということです。ダビデも、イエス様の言われた天の御国の入口である、「心の貧しいものは幸いです。天の御国はその人のものだからです。」が当てはまります。

69:34 天と地は、主をほめたたえよ。海とその中に動くすべてのものも。69:35 まことに神がシオンを救い、ユダの町々を建てられる。こうして彼らはそこに住み、そこを自分たちの所有とする。

69:36 主のしもべの子孫はその地を受け継ぎ、御名を愛する者たちはそこに住みつこう。

68 篇までの詩篇の状態に回復しました。シオンにおいて救いがあります。そこにイスラエルの人々が集い、それで世界中の国々が神をほめたたえます。

5A 急ぎの救い 70

そして最後、70 篇ですが、69 篇を短くしたような内容になっています。これは 40 篇の一部がそのままここにもあるのですが、けれども 70 篇に置いてあるというのは意味があります。

70 指揮者のために。ダビデによる。記念のために 70:1 神よ。私を救い出してください。主よ。急いで私を助けてください。70:2 私のいのちを求める者どもが、恥を見、はずかしめを受けますように。私のわざわいを喜ぶ者どもが退き卑しめられますように。70:3 「あはは。」とあざ笑う者どもが、おのれの恥のためにうしろに退きますように。70:4 あなたを慕い求める人がみな、あなたにあって楽しみ、喜びますように。あなたの救いを愛する人たちが、「神をあがめよう。」と、いつも言いますように。70:5 私は、悩む者、貧しい者です。神よ。私のところに急いでください。あなたは私の助け、私を救う方。主よ。遅れないでください。

ダビデは、同じように誹りをここで受けています。だから 69 篇と同じです。けれども、ここでは「急いでください」という言葉が繰り返し出てきます。そうです、大水のように中に沈んでしまったダビデですが、そこから回復した今、再びそのような誹りが来ても、今度はすぐに対処したいと強く願っているのです。私たちは、一度大きな試練があれば、そこで多くの教訓を学び、次回に生かそうとします。それで、このような害毒は速やかに処理したいという強い思いが表れていると考えられます。

復讐を主に任せる祈りをしています。そしてその後で、「あなたを慕い求める人がみな、あなたにあって楽しみ、喜びますように。あなたの救いを愛する人たちが、「神をあがめよう。」と、いつも言いますように。」と言っていますね。これが私たちでもありたいです。私たちが神を慕い求めている、それで共に主にあって喜んでいる状態を維持したいです。それから神の救いを愛して、その救いが起こされて神をあがめるようになりたいです。喜び楽しむ共同体、そして神の救いが起こり、神をあがめる共同体になってほしいです。